

11) 奥羽大学歯学部附属病院予診科における最近の初診患者の動向 一第4報一

○清野 晃孝, 渡邊 崇, 保田 穰, 佐藤 健太
北條健太郎, 山家 尚仁, 小松 憲明, 鈴木 海路
福島 和美, 宮嶋 唯, 向井雄一郎, 渡辺 聡
渡辺 議之, 梅村浩二郎, 箱崎 麗子, 佐々木重夫
杉田 俊博

(奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科)

【目的】近年の地域環境の著しい変化と本院の歯科医師の数的構成に対応すべく初診対応を原則午前のみに変更してからの、初診患者の動向について本年と過去の比較検討を行ったので報告した。

【調査方法】対象は、令和元年8月19日から9月30日までにおいて本院予診科に来院した初診患者の中で、アンケートに同意の得られた199名である。アンケート項目は、性別、年齢、職業、住所、主訴、交通手段、当院選択理由の7項目とした。

【結果および考察】本院予診科における直近の初診患者の動向をH26年、H27年およびH29年の同時期と比較した。

1. アンケートの同意率は88%にまで低下したことは、患者意識に多くの社会問題を抱える現代日本的一端を表わすものと思われた。

2. 性別割合は、女性の割合が増加し、64%を占めていた。

3. 年代別では、20代、30代、40代は減少し、患者層のピークは50代であり、高齢者のなかで80歳以上は確実に増加していることも特徴的であった。

4. 職業は 男性の職業別では、本年度は会社員が43%を示し、公務員の増加を認め、他は減少傾向にあり、女性の職業別においては、会社員は伸びず、高齢者を反映し無職と専業主婦が上位を占めた。

5. 住所別割合では、郡山市内は54%であり郡山富田駅効果は未だなく、会津地方よりもいわき方面からの来院が多かった。

6. 主訴別割合では、歯痛は最大値であるも伸びはなく、違和感が微増していた。

7. 交通手段では圧倒的に車が多く、88%を占め。郡山市において本院の所在位置は、自家用

車がなければ不便であり、バスと同様に磐越西線はまだ浸透していないようであった。

8. 当院を選択した理由は、男性女性とも「以前の受診から」が多いものの他院からの勧め、他院からの紹介が、増加傾向を示した。

本調査から、初診患者を原則午前のみに変更したにも拘らず患者数は増加し、患者意識の変化と高齢化が進んでいることが明確に把握できた。

12) 生体構造学講座法歯学5年間における鑑定実績報告 一画像からの個人識別における考察を加えて一

○花岡 洋一

(奥羽大・歯・生体構造)

【緒言】平成26年11月1日、関東地区以外では初となる、専任教授を置いた法歯学教育研究組織が奥羽大学に誕生してから丸5年が経過した。そこで第64回本学会で発表した3年間の業績に、新たに2年間の業績を追加して、ビデオ画像における個人識別の特殊性についての考察と共に報告する。

【結果】1. 平成26年11月1日から令和元年10月31日までの5年間における総鑑定数は66件であった。

2. 依頼者は警視庁が60件で9割以上を占め、茨城県警察本部、山梨県警察本部が2件、山形県警察本部ならびに民間の法律事務所がそれぞれ1件ずつであった。

3. 事例の内容は窃盗事件が最も多く24件で、次いで建造物進級18件、強盗12件、強盗致傷7件、強制猥褻6件、詐欺4件、器物破損3件、強盗殺人2件、死体遺棄2件、銃刀法違反1件、放火1件、医療事故1件であった(重複を含む)。

4. 鑑定対象は防犯ビデオ画像が63件で95%以上を占め、白骨、写真、医療記録がそれぞれ1件であった。

【考察】第64回本学会で発表した総鑑定数は3年間で33件であったが、その後の2年間で倍増の66件となり、鑑定依頼は増加傾向にあると言える。

依頼者は依然として警視庁が9割以上を占めており、これは発表者の鑑定業績が警視庁内部にさ